

# 大学と特別支援学校における「学びの計画」の比較

ともに学び、生きる 共生社会ブロックコンファレンス in 北海道

第2部 第4分科会 生涯にわたる学びのケイカクを考える

藤女子大学 子ども教育学科 今野邦彦

## 大学と特別支援学校の比較

### ・特別支援学校は何をすところか

学校教育法第72条 特別支援学校は、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者又は病弱者（身体虚弱者を含む。以下同じ。）に対して、幼稚園、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施すとともに、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けることを目的とする。

学校教育法第50条 高等学校は、中学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて、高度な普通教育及び専門教育を施すことを目的とする。

### ・大学は何をすところか

学校教育法第83条 大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。

## 高校までと大学の違い

新入生ガイダンス資料より

	高校（まで）	大学
主な目的	普通教育	専門研究
教育機関	中等教育	高等教育
学ぶ人	生徒	学生
教員	免許が必要	免許は不要
教える内容	統一されている	統一されていない
問題の答	決まっている	決まっていない

たとえば、障害、障がい、障碍、しょうがい...

## 高校までと大学との違い

新入生ガイダンス資料より

- 小・中・高では、学びの「量（あるいは詳しさ）」が増えてきましたが、高校と大学とでは「質」が変わります。
- 大学は研究をするところです。
- 高校まで積み上げてきた知識や技術を使って、またそれをさらに発展させて、新しいことを考え、新しいものを作り出すところが大学です。
- 研究をするのは、大学の先生や大学院生だけではありません。
- 大学生は受け身ではなく、自ら進んで学び、考え、研究し、自分なりの答を探す存在です。
- だから、卒業研究（卒業論文や卒業制作）があるのです。
- さあ、みなさんも大学生として一步を踏み出しましょう！

## 学習から学修へ

- 大学では「学修」「履修」「修得」という言葉をよく使います。

- **学習**

[礼記(月令)・史記(秦始皇本紀)]

①まなびならうこと。

②経験によって新しい知識・技能・態度・行動傾向・認知様式などを習得すること、およびそのための活動。

- **学修**

(主として明治期に用いた語) 学問をまなびおさめること。

[広辞苑]

## 大学の3ポリシー

学校教育法施行規則(2017)

- **ディプロマ・ポリシー** (学位授与の方針)

各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。

- **カリキュラム・ポリシー** (教育課程の編成・実施方針)

ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。

- **アドミッション・ポリシー** (入学者受け入れの方針)

各大学、学部・学科等の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果(「学力の3要素」についてどのような成果を求めるか)を示すもの。

## 子ども教育学科 ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

本学科の教育目標を達成するため、ディプロマ・ポリシーを次の通り定める。

1. 乳幼児期から青年期までの子どもの成長・発達を支援し、子どもや子どもを取り巻く人びとの生活の質の向上に寄与するための専門的知識を修得する。……………(知識・理解)
2. 社会が抱える複雑な問題を包括的な視点で分析し、保育・教育場面で生じる課題に対処できる論理的思考力と問題解決へと導く能力を身につけることができる。……………(汎用的技能)
3. 保育・教育を通して社会的責任を果たしていくことのできる態度・倫理観と、生涯にわたり主体的に学びを深める態度を身につけることができる。……………(態度・志向性)
4. 地域社会とかかわるさまざまな社会経験を通し、広い教養の涵養と子どもにかかわる多様な問題に対処できる幅広い視野と創造的思考力を身につけることができる。  
……………(総合的な学習経験と創造的思考力)

## 子ども教育学科カリキュラム・ポリシー

本学科の教育目的に基づきディプロマ・ポリシーを実現させるために、次の通りカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程の編成をカリキュラム・マップによって示す。

1. (カリキュラムの体系性および順次性)
  - ・本学科のカリキュラムは、専門に関する学びを得るために、子どもの教育という視点からアプローチする「子ども教育専修」、子どもの生活支援という視点からアプローチする「子ども生活支援専修」、各種実習や専門領域の研究法などを学ぶ「共通」の各科目群で構成し、子どもとそれを取り巻く人びとを支えるために必要な学びを多角的に捉える力を養う。
  - ・1、2年次には大学共通科目である教養科目・外国語科目ならびに学科の専門科目のうち基礎科目や保育・教育の内容に関する科目等を配置し、大学での学修や専門的な学びの基盤形成を図る。
  - ・3年次以降では、各種実習を配置し、大学で学ぶ理論や技術と保育・教育現場での経験を関連付けながら専門領域に関する学びを深め、多面的な視点で子どもや子どもを取り巻く環境を捉え、保育・教育を構想する力を育成する。
2. (教養・外国語教育)
  - ・ディプロマ・ポリシー各項目の基盤形成に資するために、1、2年次に幅広い教養科目を偏りな

		DP4 総合的な学習経験と創造的思考力					
		DP1 知識・理解		DP2 汎用的技能		DP3 態度・志向性	
年次	科目	保育内容・教科の指導法	保育・教育の内容	保育・教育の理論	子どもの理解	子どもと家族の支援	実習 専門研究法
4年次	応用科目		音楽表現演習 造形表現法	保幼小連携特論 現代社会と教育	子どもの理解と発達援助 特別支援教育実践論	子育て支援(講義) 生徒指導・進路指導	教育実習(幼稚園・小学校) 教育実習(特別支援) 保育実習Ⅱ 卒業研究 保育・教職実践演習
3年次	展開科目	国語科教育法 社会科教育法 算数科教育法 理科教育法 生活科教育法 音楽科教育法 英語科教育法	国語 算数 理科 社会 生活 音楽表現法 乳児保育Ⅱ 社会的養護内容 子どもの遊びと学び	教育課程総論 教育制度論 学級経営論 特別支援教育と福祉 教育相談の理論と方法	児童期以降の発達と心理 特別な教育的ニーズ に対する理解と支援 病弱児教育 視覚・聴覚障害児 教育総論 子どもの食と栄養	子育て支援(演習) 子ども家庭支援の心理学	保育実習Ⅰ(保育所) 保育実習Ⅰ(福祉施設) 専門演習 臨床発達検査法
2年次	基礎・展開科目	図画工作教育法 体育科教育法 家庭科教育法 保育内容の指導法(人間関係) 保育内容の指導法(言葉)	図画工作 初等体育 英語 音楽 家庭 保育内容(健康) 保育内容(環境) 保育内容(表現) 子ども文化論 乳児保育Ⅰ	教育方法論 地域社会と学校 道德教育の理論と実践 社会的養護	教育心理学 幼児理解と援助 肢体不自由児の 心理・生理・病理 知的障害児教育 家庭支援論 子どもの保健	児童館・放課後児童 クラブの活動内容 と指導法Ⅰ	児童館実習 研究調査法
1年次	基礎科目	保育内容総論		教育原理 保育原理 教師・保育者論 子ども家庭福祉論	発達心理学 特別支援教育総論		スタートアップセミナー
		子ども教育専修				共通	
		子ども生活支援専修					
大学共通科目		【教養科目】人間と宗教 ジェンダー・キャリア形成 国際理解 社会と文化 歴史・思想 自然・科学 健康 リテラシー 【外国語科目】英語 ドイツ語 フランス語 中国語 韓国語					

## 取得できる免許・資格



**幼** 幼稚園教諭1種免許状

**小** 小学校教諭1種免許状

**特** 特別支援学校教諭1種免許状

**児** 児童厚生1級指導員資格

**保** 保育士資格

その他: 社会福祉主事、司書、司書教諭



幼 小 特

幼 小 保

幼 特 保

幼 保 児

小 特

幼 小

幼 保

3つ以内は可能

モデル4：卒業＋幼稚園教諭一種免許取得＋小学校教諭一種免許取得＋特別支援学校教諭一種免許取得

		1年	2年	3年	4年															
大学共通科目	教養科目	キリスト教概論 必修2単位 女性とキャリアⅠ 必修1単位																		
		<table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>選択必修</td> </tr> <tr> <td>人間と宗教</td> <td>選択必修2単位</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">人間形成</td> <td>国際理解</td> <td rowspan="2">選択必修2単位</td> </tr> <tr> <td>社会と文化</td> </tr> <tr> <td>歴史・思想</td> <td rowspan="2">選択必修2単位</td> </tr> <tr> <td>自然・科学</td> </tr> <tr> <td>健康</td> <td>選択必修2単位</td> </tr> <tr> <td>リテラシー</td> <td>選択必修2単位</td> </tr> </table>	区分	選択必修	人間と宗教	選択必修2単位	人間形成	国際理解	選択必修2単位	社会と文化	歴史・思想	選択必修2単位	自然・科学	健康	選択必修2単位	リテラシー	選択必修2単位			
		区分	選択必修																	
人間と宗教	選択必修2単位																			
人間形成	国際理解	選択必修2単位																		
	社会と文化																			
	歴史・思想	選択必修2単位																		
	自然・科学																			
健康	選択必修2単位																			
リテラシー	選択必修2単位																			
外国語科目	教養科目・外国語科目から選択必修13単位以上 合計30単位以上																			
		Academic CommunicationⅠ 必修1単位 Academic CommunicationⅡ 必修1単位 選択必修：4単位以上																		
学科専門科目		幼稚園教諭一種免許を取得するために定められた、「領域及び保育内容の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」等を履修																		
		小学校教諭一種免許を取得するために定められた、「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」等を履修																		
		特別支援学校教諭一種免許を取得するために定められた指定科目を履修																		

[幼稚園・小学校教諭免許指定科目]

<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語（書写含む）</li> <li>・社会</li> <li>・算数</li> <li>・理科</li> <li>・生活</li> <li>・子どもの遊びと学び</li> <li>・音楽</li> <li>・音楽表現法</li> <li>・音楽表現演習</li> <li>・図画工作</li> <li>・造形表現法</li> <li>・家庭</li> <li>・初等体育</li> <li>・英語</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科教育法</li> <li>・社会科教育法</li> <li>・算数科教育法</li> <li>・理科教育法</li> <li>・英語科教育法</li> <li>・生活科教育法</li> <li>・音楽科教育法</li> <li>・図画工作科教育法</li> <li>・家庭科教育法</li> <li>・体育科教育法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育内容（健康）</li> <li>・保育内容（人間関係）</li> <li>・保育内容（環境）</li> <li>・保育内容（言葉）</li> <li>・保育内容（表現）</li> <li>・保育内容総論</li> <li>・保育内容の指導法（健康）</li> <li>・保育内容の指導法（人間関係）</li> <li>・保育内容の指導法（環境）</li> <li>・保育内容の指導法（言葉）</li> <li>・保育内容の指導法（表現）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育原理</li> <li>・教師・保育者論</li> <li>・教育制度論</li> <li>・学級経営論</li> <li>・教育心理学</li> <li>・学校教育心理学</li> <li>・児童期以降の発達と心理</li> <li>・特別な教育的ニーズに対する理解と支援</li> <li>・教育課程総論（全体的な計画を含む）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育の理論と実践</li> <li>・特別活動・総合的な学習の時間の指導法</li> <li>・教育方法論</li> <li>・生徒指導・進路指導</li> <li>・幼児理解と援助</li> <li>・臨床発達検査法</li> <li>・教育相談の理論と方法</li> <li>・教育実習（幼稚園・小学校）</li> <li>・教育実習指導（幼稚園・小学校）</li> <li>・保育・教職実践演習（幼稚園・小学校）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保幼小連携特論</li> <li>・地域社会と学校</li> <li>・現代社会と教育</li> </ul>

## 大学での「計画」とは？

(藤女子大学「履修ガイド」から抜粋)

- 「履修ガイド」は、大学でどのように学ぶか、そして4年間の計画をどのように立てるとよいかの目安になるように〔履習要項〕、学科毎の〔履修の手引き〕、〔教育課程表〕と授業毎の〔シラバス〕とからなっている。
- 「履修の手引き」によって卒業までにどのような科目を選択すればよいかを考え、計画的に学ぶように心がける。
- 履修登録では、入学年度の教育課程表および「履修ガイド」を参考に卒業までの履修計画をたて、その年度に履修するすべての授業科目について、履修登録をしなければならない。

## 大学での「計画」から言えること

- 大学では、より自主性、自律性が求められる
- 大学での学びは自由度が高い、選択の幅が広い
- 大学では、大まかな道筋は示されるが、何をどのように学ぶかは、自分で計画する
- 生涯学習においても、あくまでも主体は学習者
- ただし、共同学習者やコーディネーターがいた方が...
  - 学びが広がる
  - 学びが深まる
  - 学びが続く

令和3年度 ともに学び、生きる共生社会コンファレンス in 北海道

生涯にわたる学びのケイカクについて考える

「知的障がいのない医療的ケア児に対する

支援・指導計画・大学進学への支援」

1

2022年2月5日

北海道北見北斗高等学校 教諭 藤森美佐子

# 自己紹介

藤森美佐子

- ・平成11年より 北海道紋別養護学校勤務
- ・平成16年より 北海道紋別養護学校さたみ学園分校  
(現：北見支援学校) 勤務
- ・平成26年より 北見市立北中学校勤務
- ・平成29年より 北海道北見北斗高等学校勤務

2

令和3年度 ともに学び、生きる共生社会コンファレンス in 北海道

「生涯にわたる学びの  
ケイカクについて考える」

- 1 事例生徒について(高校時)
- 2 ケイカクをどのように作成したか
- 3 指導・支援の実際
- 4 事例生徒の現在

令和3年度 ともに学び、生きる共生社会コンファレンス in 北海道

## 1 事例生徒について

【事例K】

- (1) 平成14年生まれ  
現在大学2年
- (2) 病名：脊髄性筋萎縮症Ⅱ型  
症状：徐々に筋力が衰えていく  
その他の診断：四肢体幹機能障害  
高度側彎  
慢性呼吸不全  
手帳：身体障害者手帳1種1級  
(両下肢・両上肢の機能の著しい障害)



4

令和3年度 ともに学び、生きる共生社会コンファレンス in 北海道

# 1 事例生徒について

## 【高校時の障がいの状態】

- ア 食事：摂食支援が必要。横臥位の状態での摂食することが望ましい。
  - イ 排泄：おむつを使用。全介助が必要である。昼休みにおむつを交換。
  - ウ 運動機能：自立での座位はできない。右手の一部、左足の一部でわずかに随意運動ができる。
  - エ 感覚機能：感覚は通常発達をしているため、体を伸ばしたい、足を動かしたいなどの感覚を有している。そのため、授業中に体位変換を要求することがある。
  - オ 筆記：短時間（5分程度）自筆可能。筆圧が弱いいため、10Bの鉛筆を使用。
- 鉛筆の持ち方、筆記台の向き、紙の位置などの調整が必要。

6

令和3年度 ともに学び、生きる共生社会コンファレンス in 北海道

# 2 ケイカクをどのように作成したか

## 出会いとかがわり

Kさん	藤森	関係性
市内小学校卒業 (特別支援学級)	北見支援学校勤務	-
中学入学 (特別支援学級)	北見市立〇中学校へ 転勤	中1,中2はCo. 中3は担任
高校入学 (普通学級：通級)	北見北斗高校へ転勤	高1 通級による指導 担当教諭 高2 Co. HR副担 高3 Co. HR副担

7

# 2 ケイカクをどのように作成したか

## (1) 個別の教育支援計画

(様式3)

氏名	性別	年齢	中学校	北見北斗
母、(H26)藤森美佐子(H27)	男	16	高校	高校
作成者			平成26年5月16日 (H28.09.10) (H29.09.10)	
● 本人・保護者の希望				
現在の希望				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康に気を付け学校に登校できることを目標にしたい。(H26.5 中1)</li> <li>・無理のない範囲で授業に参加していきたい。(H27.5 中2)</li> <li>・身体のハンデはあるが、できるだけ友達と同じ活動をしたい。(H28.5 中3)</li> <li>・クラスの人々と同じ活動がしたい。(H29.5 高1)</li> <li>・周囲の仲間と協力しながら楽しく学校生活を通してほしい。</li> <li>・自分のできることを努力してほしい。</li> <li>・普通のことと同じく働きしてほしい。(中学)</li> </ul>				
将来の希望				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校をみんなと一緒に卒業することを目標としている。(中1、中2年)</li> <li>・普通高校(北見北斗高校)に進学したい。(中3年)</li> <li>・大学に進学したい。(高1年)</li> <li>・普通高校への進学も考えていきたい。(中学)</li> </ul>				

8

## (2) 個別の指導計画

生徒名	北海道	北見北斗高等学校	学年・組	学年・組	作成者	通級担当	藤森美佐子
個別の指導計画 (前期)							
平成26年5月12日作成							
通級終了目標 (通級終了の時期2年後)							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活行動全般、言語、運動、情緒、行動等の通で、特に配慮を要する様々な状態を改善・克服し、自立的な生活ができるようになる。</li> <li>・コミュニケーション手段として、ICT機器等を通じて適切に選択・活用することができる。</li> <li>・(コミュニケーション)</li> <li>・可動域の保持や電動車いすでの自力移動するための筋力を維持できるように動作訓練や筋力維持の活動を行う。(身体の動き)</li> </ul>							
年間目標							
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 音入力、視察入力の方法を理解し、操作に慣れることができる。</li> <li>○ 自立的な社会生活を営めるように、様々な人と適切なコミュニケーションをとることができる。</li> </ul>							
前期	通級における指導①	通級における指導②	通級における指導③	通級における指導④	通級における指導⑤	通級における指導⑥	通級における指導⑦
目標	音入力、視察入力の方法を理解し、操作することができる。	タブレットを操作し、教科書や単語帳を閲覧する方法を知る。	「社会と情報」の教科書の時間や学校活動における学級活動や授業、学校生活や授業活動、授業、	通級における指導②	通級における指導③	通級における指導④	通級における指導⑤
指導	音入力、視察入力の方法を理解し、操作することができる。	タブレットを操作し、教科書や単語帳を閲覧する方法を知る。	「社会と情報」の教科書の時間や学校活動における学級活動や授業、学校生活や授業活動、授業、	通級における指導②	通級における指導③	通級における指導④	通級における指導⑤

### (3) どのようなように指導計画を作成したか

- ① ニーズを踏まえた上で本人に必要な力を考える  
(本人、保護者、通級担当)
- ② 高校という環境で可能なことと不可能なこと調整で可能になることの確認 (通級担当、HR担任)
- ③ 入学後の生徒の実態把握(行動観察)
- ④ 個別の教育支援計画 中学からのものを修正  
(通級担当→本人)
- ⑤ 個別の指導計画 自立活動の内容を中心  
に新たに作成  
(通級担当→本人)

9

### 3 指導・支援の実際

#### (1) 通級による指導(自立活動)の取り組み

##### 目標①

大学の講義や課題に対応できるレベルにまで視線入力等の技能を高める。

##### 目標②

適切なコミュニケーション行動を選択し、自己の要求や気持ちを言語で表現し、受け身ではなく主体的にマネジメントする

10

#### 代筆支援①



11

#### 代筆支援②



12

## (2) 自立活動の学習内容

### ①PC入力の練習(音声入力)



14

視線入力装置(意思伝達装置)

- Eye Tracker Tobii 4 c gaming peripheral
- Tobii社は視線追跡や眼球運動の解析を専門に行うスウェーデンの会社。
- 重度障害者のコミュニケーション支援技術の研究をしている島根大学 伊藤史人氏が情報提供および練習用のゲームアプリを開発している。「ポランの広場」

## (2) 自立活動の学習内容

### ②PC入力の練習(視線入力)

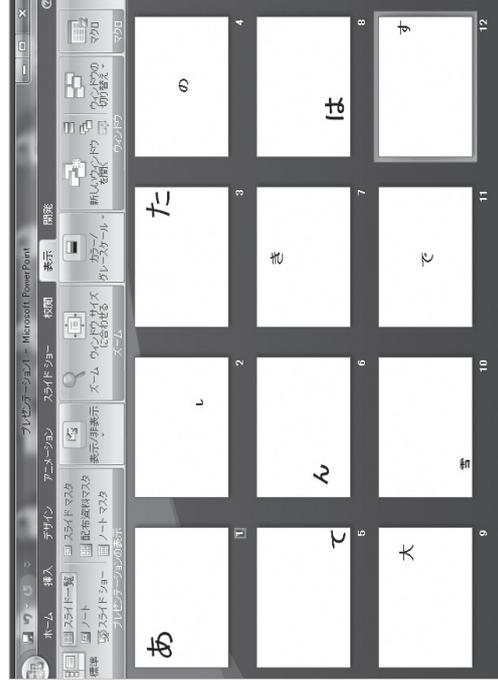


17

## (2) 自立活動の学習内容 ②PC入力の練習(視線入力)



(2) 自立活動の学習内容  
②PC入力の練習(視線入力)



18

(2) 自立活動の学習内容  
②PC入力の練習(視線入力)



19

(2) 自立活動の学習内容  
③自己マネジメント



20

(2) 自立活動の学習内容  
③自己マネジメント



21

#### 4 事例生徒の現在



22

#### 4 事例生徒の現在



23

#### 4 事例生徒の現在



24

#### 指導計画作成における課題

- 中学校までは各地域の様式で個別の教育支援計画が作られていることが多い。
- 目標設定の難しさ  
対象生徒にとって目標や指導内容が適切か、本人のニーズとのバランスなど日常的に複数の視点で評価していかなければならないが、それが難しい。
- 長期的展望の難しさ  
特別支援の生徒の担当者は、単年度で変わってしまうことが多い。

25

## さんの大学進学実現を支えた制度

- 特別支援教育スーパーバイザー派遣
- 「高等学校における特別支援推進のための拠点校事業」
- 「高等学校における特別支援教育支援員配置事業」による支援員の配置
- 高等学校における通級による指導の制度化
- 「特別支援教育  
パートナ－・ティーチャー派遣事業」
- 「重度訪問介護利用者の大学等の修学支援」

26

以上でおわかります。

詳しくは平成29年度高等学校における特別支援教育推進のための拠点校整備事業 研究開発報告書にまとめています。

27

## 第4分科会

# 生涯にわたる学びの Кейカク を考える



北海道札幌あいの里高等支援学校  
教諭 解良和人

## 学校教育目標・校訓

### 学校教育目標

- Go for your dream 『夢のために、ベストを尽くす』  
～今の自分を超え、より高みをめざそう～

### 具体的目標

- 学ぶ楽しさを体感し、自ら課題を見つけ、考え、行動し、努力し続ける生徒を育てる
- 個性・能力を生かし、他者と協力しながら、北海道の未来を創造し続けることのできる生徒を育てる

### 未来

- 自分のよさや個性を理解するとともに、それに基づいた目標を持ち、その達成に向けて全力で取り組もうとする態度・姿勢、そして共生社会に相応しいシチズンシップを育む。

### チャレンジ

- 将来の夢や希望を膨らませ、よりよい社会生活、進路決定など自身のQOL向上のために自己理解を進め、自ら課題を見出し、その課題の解決に向けて、取り組むために必要な資質・能力を養う。

### 感謝

- 様々な場面において、他者のよさや感情を共感的に理解しようとする姿勢を涵養する。さらに、社会に貢献しようとする意欲や他者の好意に感謝する気持ちを培う。

# 学校の概要

平成28年4月に開校しました

## 住所

・札幌市北区あいの里4条7丁目1-1

## 寄宿舎

・無

## 通学方法

・JR、バスなど  
・地下鉄麻生駅からスクール便バスを運行

## 生徒数（令和3年6月現在）

・170名

## 職員数（令和3年6月現在）

・91名

## 定員（令和3年度）

・1学級8名（普通科3学級・職業学科5学級）

## 令和2年度学校祭



## 令和元年度 あいサークル



本校非公式キャラクター アイネ

# 設置学科

5つの職業学科と普通科を設置しています



## 生産技術科

木工製品やセラミック製品の製作



## 環境・流通サポート科

清掃などの環境整備  
書類の丁合、製本作業など



## 被服デザイン科

手芸、織物、染色など



## 食品デザイン科

生活用品、服飾製品の製作  
パンや菓子の製造など



## 福祉サービス科

介護、清掃、調理の家事援助  
接客など



## 普通科

各教科で得た知識・技能を生かし  
「総合的な探究の時間」を通して  
深める

# 個別の教育支援計画

◇基礎シート (様式1)

本人	ふりがな	性別	男	女				
	氏名	生年月日	平成	年	月	日		
	療育手帳の有無	有 ( )	年	月	交付/次回更新	年	月	無 ( )
	身障手帳の有無	有 ( )	年	月	交付/次回更新	年	月	無 ( )
住所	その他の手帳							
	住所							
	〒							
保護者	保護者氏名	フリガナ	続柄 ( )					
	住所							
	*本人の住所と異なる場合はのみ記入してください							
	電話番号 (自宅)							
	(携帯)	父・母・その他 ( )						
	(携帯)	父・母・その他 ( )						
	緊急連絡先①	自宅・携帯 ( )	その他 ( )					
緊急連絡先②	自宅・携帯 ( )	その他 ( )						
家族構成 (令和3年4月1日現在の状況を記入してください)								
氏名	続柄	年齢	勤務先 (学生の場合は学校名と学年)					
フリガナ			同居・別居					
フリガナ			同居・別居					
フリガナ			同居・別居					
フリガナ			同居・別居					
フリガナ			同居・別居					
フリガナ			同居・別居					
その他、近郊に在住する祖父母・親戚などがありましたら記入ください。								
フリガナ								
フリガナ								

◇学校生活上、配慮などが必要な事項

健康面	
日常生活	
身体機能	
心身面	
コミュニケーション	
対人関係	
その他	

◇本人・保護者の希望

	高校在学時の希望	高校卒業後の希望
本人		
保護者		

# 個別の指導計画

I 個別の指導計画

1 個別の教育支援計画における長期目標について

入学時の願い	生徒の願い	
	保護者の願い	
長期目標 (卒業時の目標)		
長期目標についての詳細	1学年	
	2学年	
	3学年	

2 自立活動

1年次

生徒の状況	
目標	1年
手立て	
評価	
前期	後期

II 学習の様子

観点	日 数	学習した内容	評 価	備 考
国語				
社会				
数学				
理科				
音楽				
美術				
保健体育				
職業				

# 個別の移行支援計画

**個別の移行支援計画**  
 (平成 年 月 日 記入者: 北海道札幌あいの巣高等支援学校 担任)

ふりがな	姓	生年月日	平成 年 月 日生
氏名			
項目	本人の希望(卒業後になりたい自分)	今後の課題	
【生活面】			
【対人面】			
【作業態度面】			
【作業能力面】			
【その他】 様子など			
<b>具体的支援</b>			
支援者・支援機関	支援内容		
<input type="checkbox"/> 日常生活	場所 連絡先 担当者		
<input type="checkbox"/> 出身学校	場所 連絡先 担当者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全般的な相談窓口を行う。</li> <li>・卒業支援の訪問、卒業関係書類の配付を行う。</li> <li>・関係機関との情報交換を行う。</li> </ul>	
<input type="checkbox"/> 進路先	場所 連絡先 担当者		
<input type="checkbox"/> 相談機関	場所 連絡先 担当者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事や生活の悩みなどの相談などを聞いてもらう。</li> <li>・障害基礎年金申請時の支援をしてもらう。</li> </ul>	
<input type="checkbox"/> 医療機関	場所 連絡先 担当者		
<input type="checkbox"/>	場所 連絡先 担当者		
備考			

上記の支援計画に同意します。  
 年 月 日 本人署名(自筆)

## 特別支援教育とは？

特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものである。

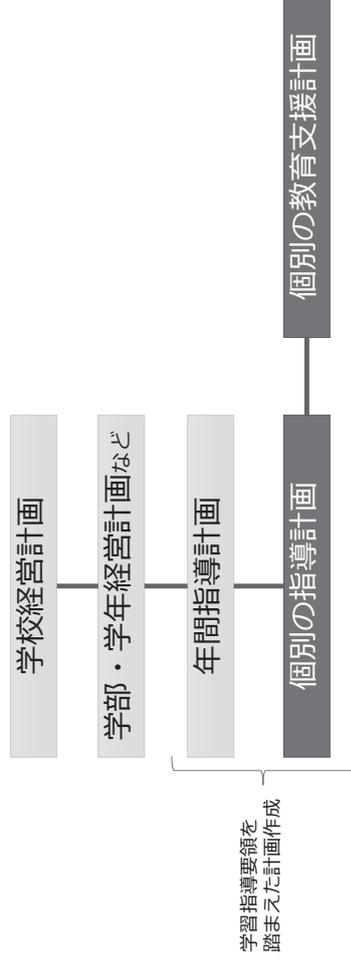
「特別支援教育の推進について(通知)」(平成 年)文部科学省

### 第4分科会

「生涯にわたる学びのケイカクについて考える」

北海道教育庁学校教育局特別支援教育課  
特別支援教育指導係長 津川 周一

## 特別支援学校・特別支援学級の「ケイカク」



## 「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」

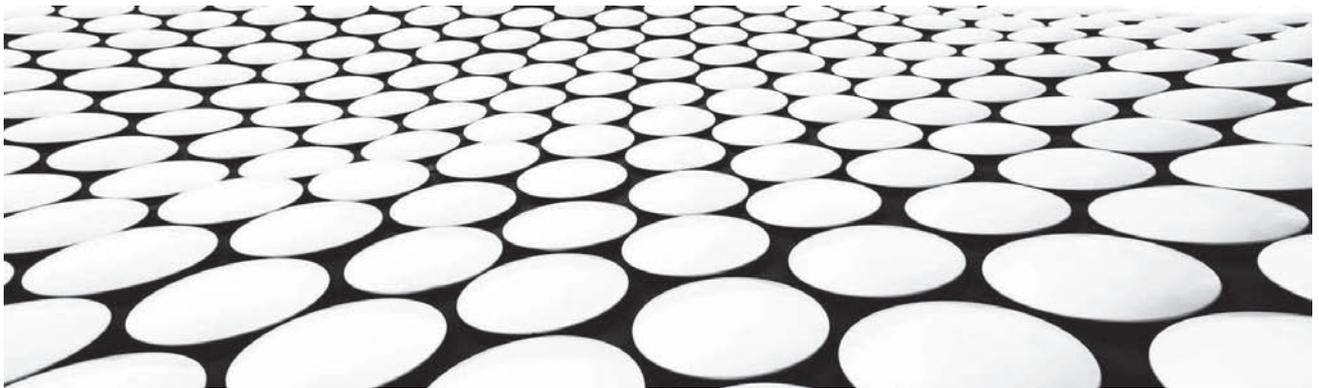
個別の指導計画	個別の教育支援計画
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個々の児童生徒の実態に応じて適切な指導を行うために各学校で作成しなければならないもの</li> <li>○ 学習指導要領の内容を具体化し、障がいのある幼児及び児童生徒一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、きめ細やかに指導するために作成するもの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 障がいのある児童生徒一人一人に必要とされる教育的ニーズを正確に把握し、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通じて、一貫した的確な支援を行うことを目的に作成するもの</li> </ul>



---

# 令和3年度共に学び、生きる共生社会コンファレンスIN 北海道

## 第5分科会 学生サミット発表



---

### 発表の流れ

オンライン講演会・実地体験等  
2か月間の学びを振りかえり共有

アクション宣言の中身・決定過程から  
学生チームが見出した論点を整理する

学びの軌跡

アクション宣言

宣言に込めた思い

学生チームによる

共生社会実現に向けたアクション宣言

---

## 学生サミット 学びの軌跡

- 10/29 第1回打ち合わせ
- 11/12 学生同士の顔合わせ①
- 11/30 学生同士の顔合わせ②
- 12/5 イベント参加①(柿のランニング)
- 12/14 お話し会①(医療法人稲生会理事長・土島先生)
- 12/17 お話し会②(衆議院議員・荒井ゆたか氏)
- 12/20 お話し会③(伴理在住の友達国際交流)
- 12/26 イベント参加②(フライングサッカー体験)
- 12/26 イベント-MTG
- 1/4 イベント参加③(とんとこクッキング@医療法人稲生会)
- 1/9 イベント参加④(重度障害当事者の方のお宅訪問・餅つき)
- 1/13 お話し会④(LGBTQ当事者の方のお話し会)
- 1/16 お話し会⑤(とんとこクッキングの振り返り)
- 1/29 イベント参加⑤(写真展)

2022/2/10

---

## お話し会（参加者アンケートを基に）

医療法人稲生会理事長・土島先生

「共生社会の答えがまだ見つかっていないということがわかった。」

「共生とは考え続けるもので、状況により解釈が違うのだからその人ごとに考えさせる場を提供することで止まっておいた方が良い（＝自分なりに共生社会の答えを教えることはしない）のでは？と解釈できた。」

「共生社会という言葉は、もしかしたら実態なき概念で、そこについて考え続ける態度こそが求められている答えなのではないかと感じた。」

「障害は共生社会の氷山の一角に過ぎないのであって、今も新たな多様性が誕生している以上は、その都度考え、自らと異なる文化や現実と共存する一般的な能力を磨くのが必要と感じた。」

2022/2/10



衆議院議員・荒井ゆたか氏

「カナダに生まれ、小5から田舎で育った私は幼い頃はみんなに勉強に追いつくために頑張っていた。基礎的な勉強が追いついたあとでも、ずっと偏差値50は超えなければいけないと思っていた。お話を聞いて教育の現場で半分より下の子供たちがそれでも自分の価値や自分は素晴らしいと思えるようにすることが大事ということをおっしゃっていた。もちろん勉強して学びを広げることは素晴らしい。それでも偏差値50以上、偏差値高いという価値観の押し付けは決して共生ではないと思う。」

「実際に実力をもって国政に携わる方を仲間にして運動を起こしたり、自分の意見を上げたりすることは非常に大切だと思ったし、特に実現可能性という点においては、絶対に政治分野への働きかけは必要であると感じた。」

「共生、というよりも教育についての学びが深い会だった。フィンランドについてのお話があったように、他国はどういう教育があるのか、共生社会に向けての取り組みはどんなことがあるのかを調査するのもヒントが得られると考えた。」

2022/2/10



LGBT当事者の方

「共生社会アンチの人達の見解も肯定しないと、真の共生社会は実現できないのだとハッとしたり→真の共生は強制しないことだと解釈した」

「誰かにバレてしまったらという恐怖を感じたことは自分はなかったが、今よりもシビアな時代だときっと生きづらい世の中だったのだと思った。変えていかなければならないのは僕たちで、それは自分が認めるかではなく相手を尊重することができるか。迷惑をかけていないことに対して声を上げての否定は違うんじゃないかなと思った。」

「学校では、周りの人間、関わる人間を選べない(同調圧力)」

「結婚のことを考えるフェーズの中で好きであるのに結ばれない。家を借りる時も法律の面で当たり前のサービスを受けられない当事者たちのお話を聞いてすごく生きづらさはあると感じた。人をなんでも型に当てはめなくて良いと思う。」

2022/2/10

---

## 実地体験（参加者アンケートを基に）



### 重度障害当事者の方のお宅訪問（餅つき）

「障害者と健常者というバリアを壊すには、バリアを意識しないことが重要だと思った。もちつきという関係ないものを利用することで、自然とバリアがなくなっている状況を作り出せるのではないかと気づいた」

「障害の有無とは全く関係のない家族の温かみを強く感じた。障害とか、できるできないとか関係なく1人の人間として、愛する家族として大切な存在なのだと感じた。」

「障害当事者に何かしてあげるだけではなく、その家族に対してのケアも大事なのではないかと考えた。ご家族に喜んでもらったことも非常にうれしかった。」

2022/2/10

---

### とんとこクッキング@医療法人稲生会



「太鼓の音や振動は、障害者健常者関係なく心揺さぶられるものなので、そういった共通のものを通せば、両者の壁みたいなものは薄まるなと体感しました。」

「久々の太鼓チャレンジ&どんぐりっこたちとの再会だった。まず太鼓は、コミュニケーションは言語だけではないのだと改めて感じさせられた。動き、声、表情などすべてを使って感情表現をしてくれる子供たちと過ごすうちに、受け取る側の感受性も豊かになっていくのを感じた。また、大人が楽しそうに運営・参加するイベントは、子供たちにもその楽しさが伝染するという、登山企画の時以来の同じ学びを得た。」

「オンライン参加の子たちの画面では保護者の方も一緒に叩いていて、親子ともに笑顔を見ることができた。私たちは社会で生きていく中で劣等感を感じたりできないことを嘆いたりすることがあるが、みんなが笑顔で過ごすことができればそれだけでいいのではないかと思った。」

「初めて重度障害の小さな子どもに会った。自分の中で、どんな子どもでもかわいいなという気持ちが変わらずあることがわかった。」

2022/2/10

---

## ロンドン在住の方（国際交流）

「ヨーロッパの文化の進み方や多様性がすごいと感じた。日本と同じ島国ではあるが、文化を受け入れる姿勢等を見習うべきだと思ったし、海外の人にはもっとお話を聞きたいと思った。」

「ロンドンでもホームレス、貧富の差が大きい問題が印象的だった。歴史的な建物のバリアフリー化は歴史の保全との掛け合いがあるというのは日本とも似ているらしい…。文化、伝統と現代の問題との折り合いをどうつけるか気になった。」



2022/2/10

---

## アクション宣言

### ① 共生社会とは何か

## ■ 答えは出ませんでした

→ 多様性に際限なし（今この瞬間も新たな多様性が誕生）

2 か月間の学びで触れた多様性は氷山の一角

共生社会を考え続けるスタート地点に立ったに過ぎない



2022/2/10

---

## ②僕たちのアクション宣言

### I 学び・考え・触れ続ける

### II いつの間にか学べる場を作る

2022/2/10

---

## I 学び・考え・触れ続ける

- ・ 際限ない多様性に対するたったひとつの対処法「継続すること」
- ・ 氷山の一角を知っただけで、共生社会は実現しない
- ・ 様々な多様性を学び・考え・触れ続けることで、新たな多様性を受け入れる作法を学ぶ
- ・ Z世代は特に、「触れること」が重要  
→ 誰が見たのか、本当に見たのかわからない情報が氾濫



新たな多様性に出会ったら  
こうしたらいいんだ！

---

## Ⅱ いつの間にか学べる場を作る

# 「稲生会の1室乗っ取り計画」



2022/2/10

---

### 稲生会の1室乗っ取り計画とは

- ・ 稲生会には使えそうな空室が・・・（おもちゃの部屋など）
- ・ その1室を使って学生の学び継続の場を創出（サークル）
- ・ 誰でも集まれる憩いの場を提供する（学び+楽しみ）
- ・ 日によって来訪者が変わる場



---

## 「いつの間にか学ぶ」

幼稚園で初めにした勉強を覚えていますか？

挨拶、手洗い、順番待ち、譲り合い・・・

挨拶 → おはようございますの歌・踊り  
手洗い → 手洗いうがいの歌・踊り  
順番待ち → おまけのおまけの汽車ポッポの歌  
食育 → 大根抜きゲーム・焼き芋大会

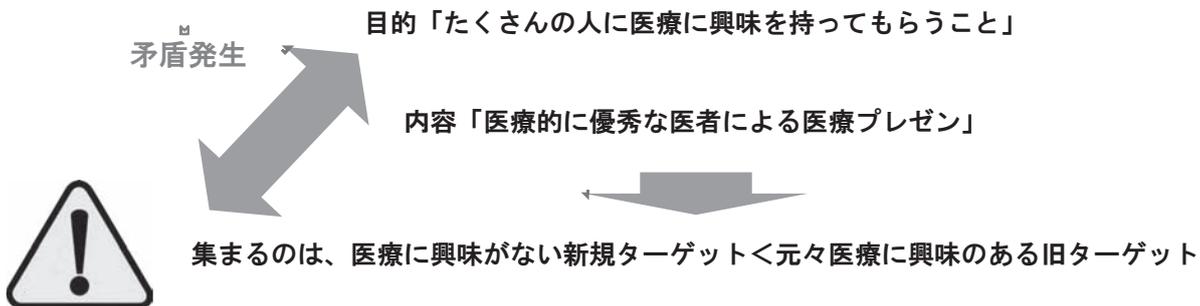
手洗いとか食育とか興味ないけど  
歌やゲームは楽しい！

この時、歌ったり、踊ったり、楽しいゲームをしているうちに  
「いつの間にか学んでいた」ことに気づきますよね？



---

## (例) とある医療イベントの場合



医療に興味がない人は、そもそも医療系のイベントなんか来ない

医療系のイベントは、元々医療に興味があった人の意識を強化するため、そもそも興味がない人との格差はもはや拡大して悪化

食育に興味のない幼稚園児に、食育を真面目に語っているのと同じ

2022/2/10

---

## 興味のない人やアンチを仲間にできる学び方

- ・ テーマを前面に押し出さない

→ 出せば出すほど新規参加者にとって「つまらなそう」な情報

- ・ テーマ抜きでの魅力

→ 「医療系のイベント」に甘えて他の内容をさぼっていないか。それ抜きでもちゃんと魅力的？

- ・ 実体験で学べる「非言語的学習」

→ 理屈抜きで感じる魅力を作り出せているか？「ルールを聞くより遊びたい」に答える。



## いつの間にか学ぶ「空間」の創出



---

## 終わりに

- ・ 学生が提供できる学び、大人が提供できる学び

→ 体を張る学び、経験が要求される学び、人脈・財力が必要な学び・・・

- ・ 見える、見えないの差があるだけで、万人が困難を共有

→ 人によって挑戦の内容は変わる。自分にとっての挑戦を忘れずに。

- ・ 新たな仲間を増やし、そして学び、考え続けること

→ まだ見ぬ多様性に備えること、未来の共生社会へ



---

## ブレイクアウトセッションへの導入

- ・ 学びは理論先行？アクション先行？
- ・ 大人が提供できる学び、学生が提供できる学びってなんだろう？
- ・ 既存のイベントの良い点・改善点は？



---

END



今回、活動に当たってお話をきかせてくださった皆様、実地体験の提供をしてくださった皆様に心より感謝いたします。

学生チーム一同

2022/2/10

# 令和3年度 共に学び、生きる 共生社会コンファレンス in 北海道

日時：令和4年2月5日（土）10:00-16:00

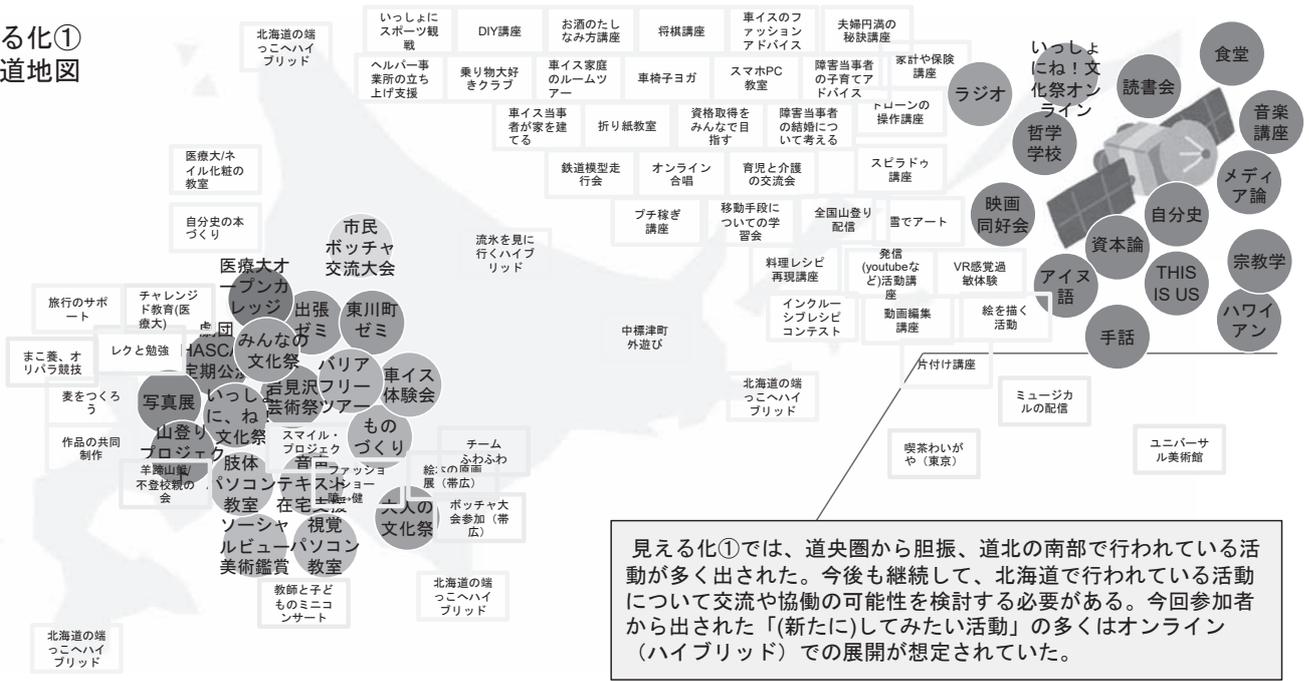
開催形式：Zoom ミーティング

事務局：北海道教育委員会/医療法人稲生会

## 第1部 全体会

- 今年度コンファレンスの全体テーマである「**障害のあるひと  
ないひと みんなでひろげよう 北海道の社会教育**」について、前半では11団体から実践報告を聞いた。後半では、8人前後のグループに分かれて、現在行っている実践や、これからのアイデアを出し合い、Google formsを用いて収集、それを4種類の「見える化マップ」に落とし込んでいった。
- 報告団体（報告順）：北海道医療大学オープンカレッジセミナー、チャレンジキャンパスさっぽろ、苫小牧市障がい者パソコンボランティア友の会、社会福祉法人名寄市社会福祉協議会、カムイ大雪バリアフリーツアーズセンター、たすくゼミナール、みらいつくり大学校岩見沢アール・ブリュット芸術祭、いっしょにね！文化祭、北星女子高校医療的ケア児写真展、Dosanko Dreamix

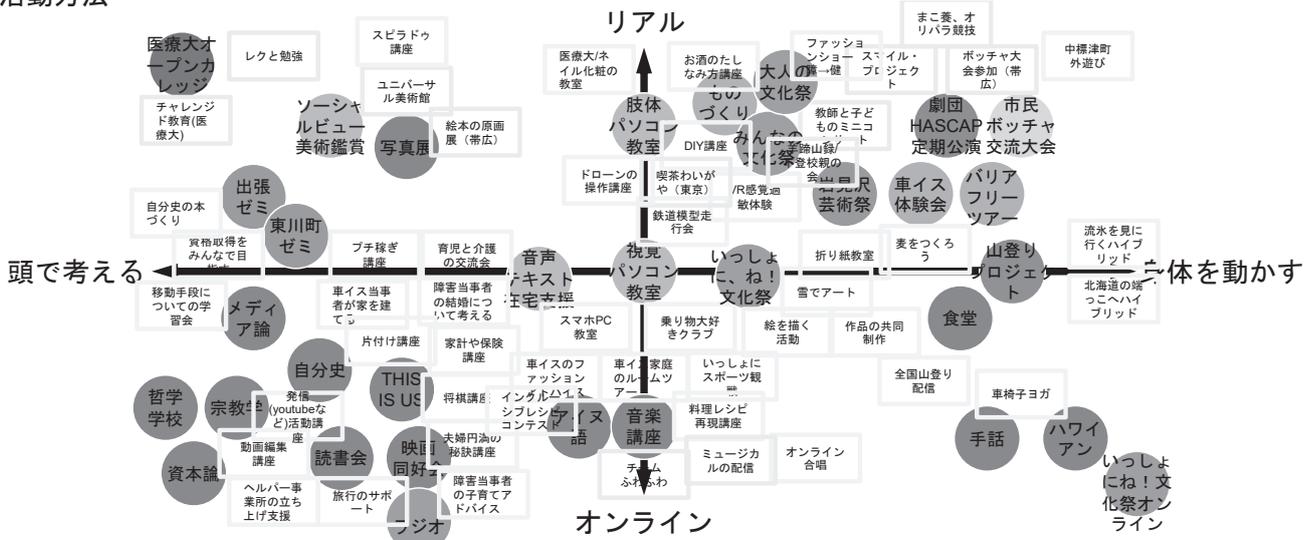
# 見える化① 北海道地図



- 発表団体
- 医療大オープンカレッジ
  - チャレンジキッズ
  - 小牧キッズ
  - 名寄市民パソコン会
  - 市民ポッチャ
  - カムイ大雪
  - たすくぜみ
  - みら大
  - 岩見沢芸術祭
  - いっしょにね!
  - 写真展
  - Dosannko Dreamix

# 見える化② x:活動内容 y:活動方法

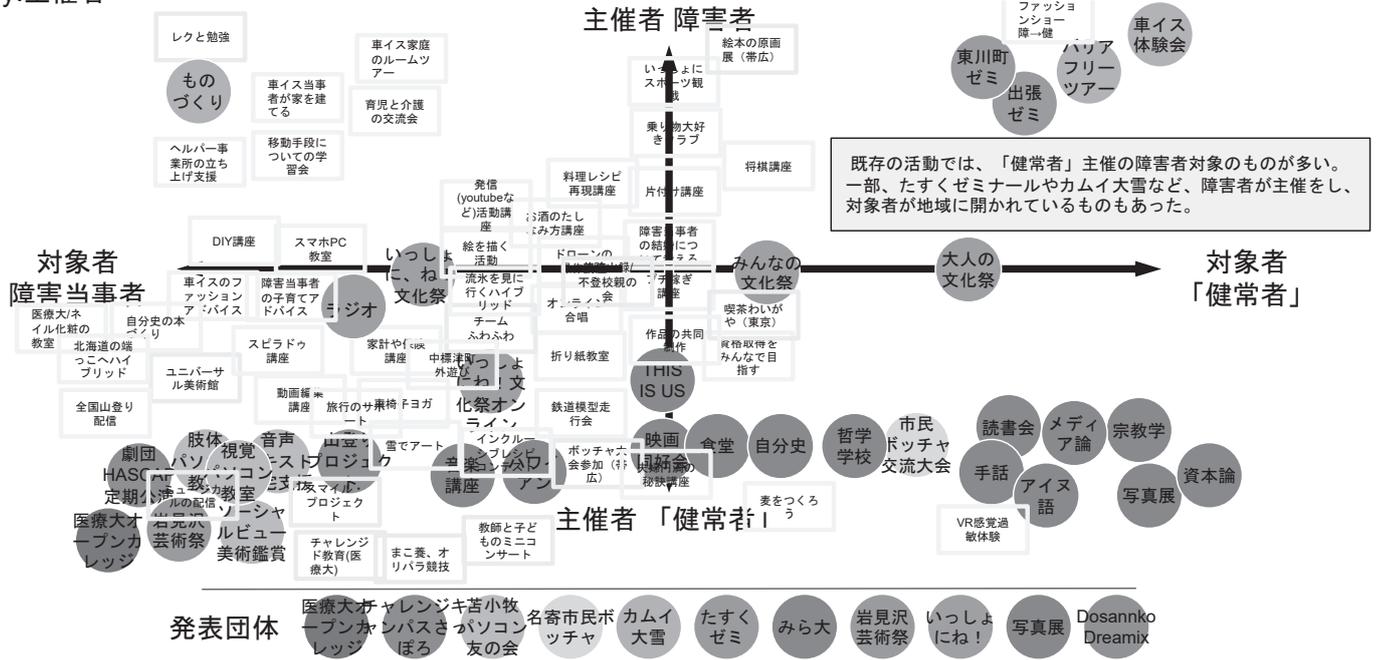
既存の活動では、リアルには体を動かすものが多く、オンラインでは頭で考える活動が多かった。実施の見通しをもつことの難しさがあったのか、「(新たに)してみたい活動」はリアルを想定したアイデアは少なく、オンラインで展開するアイデアが多かった。これまで少なかった第四象限の(オンラインで体を動かす)活動への希望も垣間見えた。



- 発表団体
- 医療大オープンカレッジ
  - チャレンジキッズ
  - 小牧キッズ
  - 名寄市民パソコン会
  - 市民ポッチャ
  - カムイ大雪
  - たすくぜみ
  - みら大
  - 岩見沢芸術祭
  - いっしょにね!
  - 写真展
  - Dosannko Dreamix

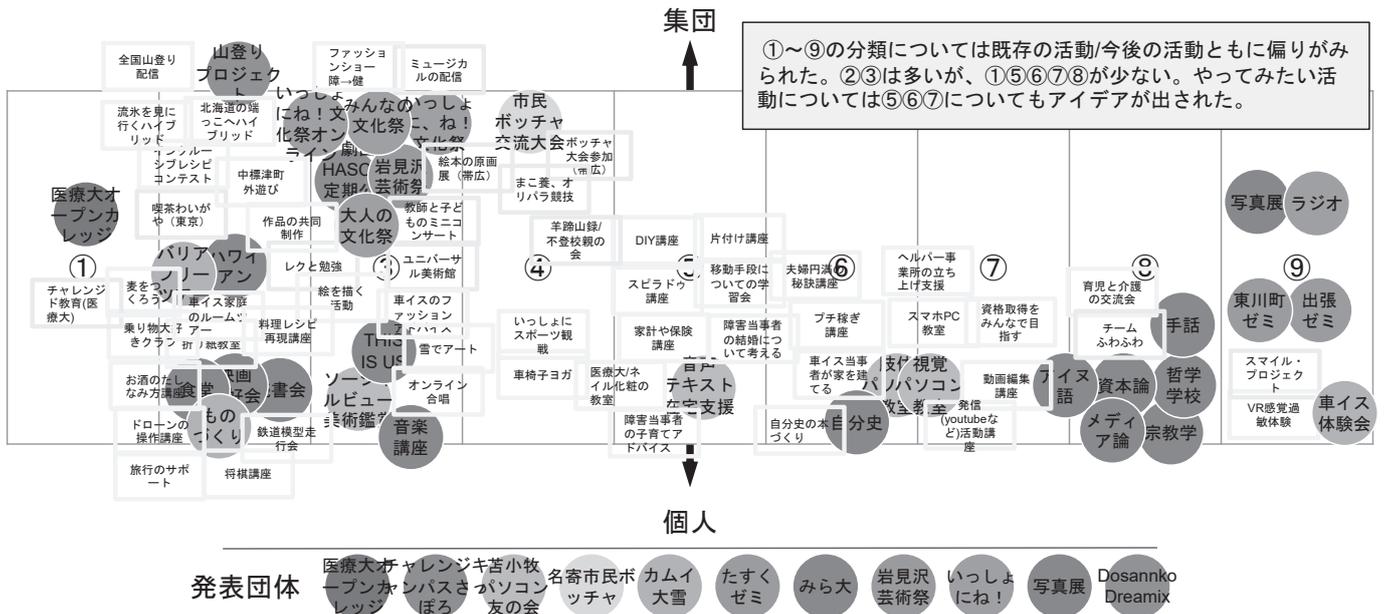
見える化③  
x:対象者  
y:主催者

やってみよう活動については、既存の活動よりも、おおよそ上部に配置されることが多く、障害者が主催をしていく活動への期待があることがわかる。見える化の担当者からは「対象者」の定義が難しく、例えば演劇における役者を指すのかそれとも観劇者を指すのか迷うといった葛藤もあったと報告があった。



見える化④  
x:活動単位  
y:文科省調査分類

- ①学校段階で学んだ内容の維持・再学習
- ②余暇・レクリエーション
- ③文化芸術活動
- ④健康の維持増進、スポーツ活動
- ⑤個人の生活に必要な知識・スキルに関する学習
- ⑥社会生活に必要な知識・スキルに関する学習
- ⑦仕事のスキルアップや資格・免許など、職業生活に関わる学習
- ⑧一緒に刺激あって向上していける仲間づくり、学習意欲を高めてくれる人間関係等に関する学習
- ⑨その他



# ※第2部 第1分科会 「自治体がつくる学びの場 ～誰もが参加できる学びの場づくり～」

## 1 事例発表

### 障がい者の学びの充実や、誰もが参加できる学習機会の 充実に向けた取組

#### (1) 北海道教育委員会

令和3～4年「障がい者の障がい学習推進研究協議会」

道内の全市町村において市町村の障がい学習支援担当職員を対象

障がい者の障がい学習推進に関する基本的な研修を実施、学び場づくりの担い手を育成

#### (2) 空知教育局

滝川市立図書館長講演：誰もが読書ができる環境を整えるために

★障がいのある方にとって学びやすい場とは、誰もが学びやすい場である

#### (3) 北広島市

市町村における地域コンソーシアムモデルの推進

ビッグフラッグアート制作事業（北広島市×よしもと）

★「みんなの居場所づくり」には、当事者もどんな居場所が必要か考え、発言する

#### (4) むかわ町

「障がい者の障がい学習推進研究協議会」で町保健福祉課⇄町教育委員会が情報共有

★既存の事業等を活用した連携可能な取組の検討

（指導者が障がい者支援施設等へ訪問するなどして利用者負担軽減を図るなど）

★福祉との連携（他世代との交流）→放課後こども教室

#### (5) 知内町

「町民皆スポーツ条例」を制定

障がい者と運動やスポーツを通じた様々な交流を促進

★運動やスポーツを通じた交流により、障がい者と健常者が違和感なく交流できる

★回数を重ねることで健常者に障がい者を受け入れる心の体制が整い、

また、障がい者にも遠慮なく参加するという変容が見られた

#### (6) 岩見沢市

いわみざわアートアカデミー

学校卒業後の障がい者⇄北海道教育大学の教員や学生と関わり

芸術を教わる側から、教える側になることで、自分らしく暮らせる社会実現を目指す

## 2 協議

### 「障害者が参加できる学びの場」づくりの現状と課題、今後の方向性

#### (1) 子ども達が小さな時から一緒に学ぶ空間づくり (インクルーシブ教育)を進める必要について

お互いの成長を感じあえるように、共に学びあう空間づくりは大切（保護者）

学校にも限界があるため、地域ボランティア等で共に学び合う体験は大切（養護学校教諭）

当事者が小学校のクラスに入って学ぶ取組も進めている（名寄・元社会福祉協議会）

リーダー研修の参加者等も個別サポートして修了することができている（名寄・生涯学習課）

安全面や生活指導面で配慮すべきことを保護者とよく共有する必要がある（知内）

当事者を支援する「べからず集」を作成し、支援方法を学んでいる。（苫小牧・パソコン教室）

#### (2) 教育委員会と福祉部局の連携について

講師を頼まれることもあるが、担当者が研修を通して学び合うという段階にある（知内）

コンソーシアムの構成員に組み込んで連携して事業を展開している（北広島）

障がい者団体とつながるために社会福祉協議会と連携している（苫小牧・パソコン教室）

#### (3) どこから取組をはじめ、誰が始める？ (はじめの一步)

既存の事業から、福祉と連携してできることを模索していきたい（むかわ）

市と大学で連携協定を結んでいることから、大学を巻き込むことができた（北広島）

苦情をもとに、それを解決することから取組がはじまることもある（北広島）

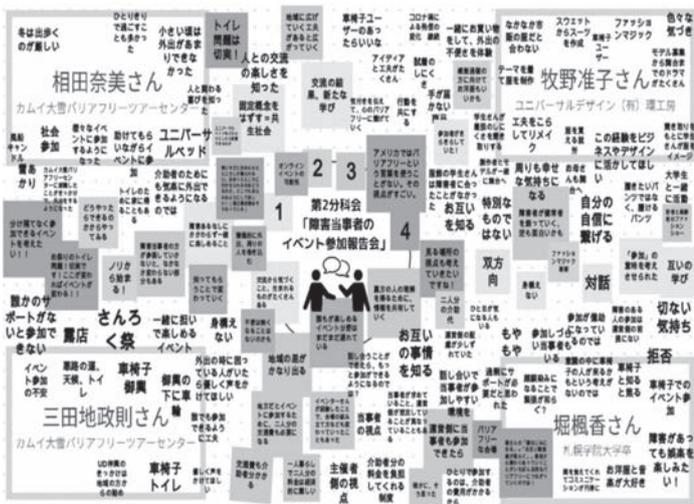
# 第二分科会



■一年目～障害の有無によらず楽しく参加できるイベントを企画する中で生まれる「コミュニティ」について考える

■二年目～一年目に企画したイベントをコロナ後に開催するため「障害」と「楽しさ」を深く考える

■三年目～障害当事者によるイベントの参加報告



### 参加者のコメント (一例)

- ・アメリカではバリアフリーという言葉が無い。視点が凄いなと思った。
- ・固定概念を外す=共生社会。
- ・お祭りのトイレ問題。切実でここが変わればイベントが変わる。
- ・交流の結果、新たな学びを得た。

### 当日は…

- ・当日の内容を付箋による色分けで見える化した。透明の付箋は報告者の発言、色付きの付箋は参加者の発言、オレンジの付箋はコメントの発言。
- ・各グループワークにより報告内容の気付き、感想を共有。
- ・当事者の発言を重視し、発表に想定以上の時間を要したためグループワークの時間を縮小。
- ・質問やチャットのコメントが活発だった。

### 報告者のコメント (一例)

- ・学生は障害当事者と外出し、始めて障害者の外出の不便さを体験した。
- ・気付きを伝えて心のバリアフリーに繋がっていく。
- ・小さい頃は一人で過ごすことが多かった。就職しイベントに参加して人と関わる喜びを知った。
- ・外出の時に困っている人がいたら優しく声をかけてほしい。
- ・イベントの主催者側に障害者が来るという意識がない。障害者も娯楽を楽しみたい。

第1回  
2019年度  
もやわくカードゲーム

第2回  
2020年度  
もやわくカードゲーム  
@オンライン

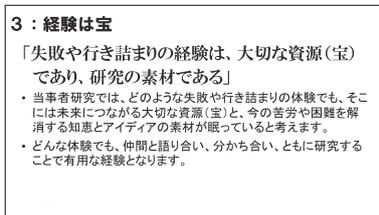
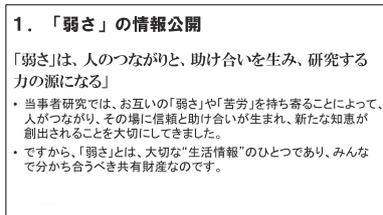
仮説  
私たちは「もやもや  
(苦労)」を基盤にして  
こそ、「ともに学ぶ」  
ことができる。

第3回  
2021年度  
働き方の当事者研究



開催概要

- ①開催趣旨説明
- ②自己紹介
- ③「当事者研究の15の理念」の確認
- ④「働くことの当事者研究」の実践
- ⑤感想の分かち合い



当日は、「ラジオ参加」をする人がいたり、「カメラをオンにするのは苦手だから」とチャットで参加する人がいたり、手話で参加する人がいました。

1.研究テーマの決定

「(職場で)みんなとうまくやりたい。でも…。」  
→かっこつけてない?  
→「かっこつけ」の当事者研究

2.研究経過

- ①一人の「かっこつけ」と、組織の「かっこつけ」がある。
- ②「かっこつけ」ていい時もあれば悪い時もある。
- ③「かっこつけ」は時に困難にもなるが、時に成長のエネルギーにもなる。
- ④「かっこつけ」も「弱さ」も、渡す人の問題でもあり、受け取る人の問題でもある。  
→「かっこつけ」て、失敗しても、「かっこよく」ある研究が必要?

一回の「イベント」で「もやもや」を基盤にした「探究」は難しい。

月に一度程度で活動を継続

## 第4分科会 生涯にわたる学びのケイカクを考える

- シンポジウム形式（ブレイクアウトセッションなし）
- 特別支援教育、福祉、高等教育などにおける「学びの計画」の現状や課題についての報告を聞き、障害の有無によらない「生涯にわたる学び」を支えるためのケイカクのあり方について考える
- 報告者（報告順）：北海道教育委員会特別支援教育課、あいの里高等支援学校（知的障害）、北見北斗高校（普通高校）、藤女子大学、相談室あんど、みらいつくり大学校
- 指定発言：身体障害・医療的ケア当事者（元特別支援学校高等部、現在は通信制大学に在籍、みらいつくり大学校で学習およびライターとして活動）

## 第4分科会 障害の有無によらない生涯にわたる学びのケイカクのあり方のポイント

- 主体はあくまで学習者
- 本人の強みを伸ばしたり、新しい価値を発見することを重視
- 本人の学びや支援についての記録を蓄積できるとよい
- 必ずしも明確な目標を立てる必要はなく、「計画外の出来事」も重要
- コーディネーターや共同学習者の存在が、学びの幅や深さ、継続性につながる可能性
- 随時修正できたり、一緒に学ぶ仲間がコメントできるケイカクがあってもよいのでは
- 重症心身障害者など言葉を用いることに困難さがある人の「ニーズ」をどのように考えるかは課題

## 第5分科会

# 「学生が考える共生社会」に向けたアクション宣言

開催趣旨：現役大学生が企画準備当日の運営全てを担う「学生サミット」。2ヶ月間の準備を経て辿り着いた「共生社会」の実現に向けた学生のアクション宣言をコンファレンス当日に発表。学生が発した宣言の意義について多様な参加者とともにディスカッションすることで、その理解を深めた。

### 学生サミット 学びの軌跡

- 10/29 第1回打ち合わせ
- 11/12 学生同士の顔合わせ①
- 11/30 学生同士の顔合わせ②
- 12/5 ｲﾝﾀ参加①(ｷｯｸｽﾀｰﾄﾞ)
- 12/14 お話し会①(医療法人稲生会理事長・土島先生)
- 12/17 お話し会②(衆議院議員・荒井ゆたか氏)
- 12/20 お話し会③(ｲﾝﾀ在住の友達国際交流)
- 12/26 ｲﾝﾀ参加②(ﾌﾞﾗｲﾄﾞﾜｰｸ体験)
- 12/26 ｺﾝﾌﾞｰ-MTG
- 1/4 ｲﾝﾀ参加③(とんとこクッキング@医療法人稲生会)
- 1/9 ｲﾝﾀ参加④(重度障害当事者の方のお宅訪問・餅つき)
- 1/13 お話し会④(LGBTQ当事者の方のお話し会)
- 1/16 お話し会⑤(とんとこクッキングの振り返り)
- 1/29 ｲﾝﾀ参加⑤(写真展)

### 当日の概要

- 参加者 45名  
内訳：発表学生7名、一般学生5名、当事者8名、当事者家族2名、社会教育関係7名、教諭4名、その他9名
- タイムスケジュール
  - 趣旨説明 (10分)
  - 学生チーム「アクション宣言」発表 (30分)
  - グループワーク (45分)  
各グループ、学生による進行 (全5グループ、各8~9名)  
学生から提示されたディスカッションテーマに基づく進行
    - アクション先行 or 理論先行 どちらが良いの？
    - 学生から学ぶこと、大人から得られる学びって？
  - 学生による共有報告 (25分)
  - まとめ (10分)

## 第5分科会

# 「学生が考える共生社会」に向けたアクション宣言

### アクション宣言

#### 共生社会とは何か

直接的な答えは出なかった  
自分たちは考え続けるスタート地点  
に立ったに過ぎない

学生によるアクション宣言として  
学び、考え、ふれ続けたい  
「継続こそが肝心」

いつの間にか学べる場をつくりたい  
「医療法人稲生会の一室から始める」

### 参加者とのグループディスカッションから～

- Z世代だからこそリアルに「触れる」ことの重要性を意識しているところに感銘を受けた
- アクション先行型でどんどん進めてほしい。互いに学びあうことを大事にして欲しい
- 経験豊富な大人から失敗談を聞くとためになる。いかに失敗談を引き出すかがポイント
- 大人のアンラーン(学び直し)も重要。空っぽの器として、学生とともに一緒に学んでいきたい
- 子どもから見てカッコよく見えたり頑張っている大人とたくさん出逢える機会があったら良い(学生)
- 異なる文化や立場の方のことを理解して認めあうことを小さい頃から経験する場が必要であると感じる(学生)
- 稲生会のみならず様々な人たちとの設定をもち続け、広げてほしい
- 医療的ケア児や肢体不自由の障害者のみならず多様な方々の話を聞いていきたい(学生)

## 第3部 分科会報告とまとめ

- 第1～5分科会の「見える化」を全員で共有
- 参加者からの意見（一部）
  - 身体障害の当事者：学「やりたい」という意欲生の分科会に参加。理論と行動どちらが先であっても、を応援したい
  - 聴覚障害の当事者（手話⇒手話通訳者が音声言語に通訳）：障害のあるひと ないひとが当たり前のように一緒に学べるインクルーシブ教育が必要
  - 知的障害の当事者：中重度の知的障害者には内容が難しいのでは
  - オンラインでも、ローカルな要素を重視した学びの場があるとよい
- 第5分科会の「アクション宣言」より、「思いがけず学びにつながる場（学ばさる場）」の必要性が認識された

